

資料2-4

参考資料

各構想区域の報告 (重点課題の取組状況)

重点課題の取組状況等について

圏域名

南渡島

重点課題

急性期経過後の患者等の受け皿と在宅医療等の提供体制の確保について

【概要】

- 南渡島圏域においては、病院の約8割が函館市内に集中し、高度急性期・急性期機能の大部分を函館市内の病院が担っている現状にあり、急性期経過後の患者を受ける回復期病院の確保や在宅医療の充実など、圏域内における病院機能の効率化や医療・介護連携の強化を図る必要がある。
- また、道南三次医療圏においても、南檜山圏域及び北渡島・檜山圏域から南渡島圏域への急性期患者の流入が多く、こうした他圏域の回復期患者の受け皿確保などの課題があり、3圏域での広域連携を一層進める必要がある。

【主な検討経過】（令和5年4月から令和6年9月まで）

- 5年7月 令和5年度第1回南渡島圏域地域医療構想調整会議地域医療構想専門部会
(ハイブリット) ・ 地域の状況及び外来機能報告結果等の共有
・ 紹介受診重点医療機関公表に係る協議
・ 病床機能に係る病院開設等計画の協議
- 5年12月 令和5年度第1回南渡島圏域地域医療構想調整会議
(書面) ・ 次期「北海道医療計画」に対する意見聴取
- 6年1月 令和5年度第2回南渡島圏域地域医療構想調整会議地域医療構想専門部会
(ハイブリット) ・ 地域医療構想の推進に関する意向調査に係る協議
・ 病床機能に係る病院開設等計画の協議
・ 森町国民健康保険病院経営強化プランの協議
- 6年3月 令和5年度第3回南渡島圏域地域医療構想調整会議地域医療構想専門部会
(書面) ・ 地域医療構想推進シートの更新協議
・ 病床機能に係る病院開設等計画の協議
・ 函館市病院及び木古内町国民健康保険病院事業経営強化プランの協議
- 6年3月 令和5年度第2回南渡島圏域地域医療構想調整会議
(書面) ・ 病床機能に係る病院開設等計画の共有
・ 自治体病院の病院経営強化プランの共有

- ・ 紹介受診重点医療機関の共有
- ・ 地域医療構想推進シートの更新協議

○ 6年7月 令和6年度第1回南渡島圏域地域医療構想調整会議地域医療構想専門部会
(ハイブリット)

- ・ 地域の状況及び外来機能報告結果等の共有
- ・ 紹介受診重点医療機関公表に係る協議
- ・ 北海道医療計画南渡島地域推進方針の協議
- ・ 特例水準（特定労務管理対象機関）の指定協議

【今後の課題・取組予定など】

- 回復期病床は増加しつつあるも、2025年の必要病床数には依然として不足していることから、引き続き公立病院経営強化プランや意向調査の結果等を踏まえながら、回復期病床の確保を進めていくとともに、在宅医療の充実に向けて協議を積み重ねていく。
- 今後とも、道南3圏域における情報共有を図りながら、道南三次医療圏での広域連携を進めていく

【参 考】

重点課題の取組状況等について

圏域名	南檜山
-----	-----

重点課題	各医療機関・自治体における機能分化と連携体制の強化
------	---------------------------

【概要】

- 令和2年3月～地域医療構想専門部会において、「南檜山圏域の医療を確保するための行動方針」を作成。
令和2年8月～国の「重点支援区域」に指定される。
令和2年9月～道と南檜山管内の5町と民間医療法人で、地域医療連携推進法人「南檜山メディカルネットワーク」を設立
地域医療連携推進法人内に、令和3年度には診療連携部会を設置、令和5年度には病床機能検討委員会を設置し、重点課題の実現のため取り組んでいる

【主な検討経過】

- 病床機能検討委員会の取組状況
「南檜山圏域の医療を確保するための行動方針」に係る取組について検討。
論点を整理した結果、3項目を課題とした。
また、併せて、新たな「南檜山地域推進方針」の策定を見据え、法人のオブザーバーである江差保健所と連携し、医療提供側の視点から、圏域における取組の方向性について検討し、南檜山地域推進方針への意見反映を行なった。
- ・ 3項目の課題について
(救急医療の集約化)
「救急医療の集約化」の実現のため、毎日午後5時以降については、各医療機関が救急当番制度で担ってきた役割を今後すべて道立江差病院に集約することで取り進めている。(令和7年度から)

(看護職員の確保)
人材確保や育成の課題に対し、各医療機関間の相互協力及び支援の促進の実施。

(今後の病床機能の検討)
法人内での「行動方針」の見直しと公立病院経営改革プランとの整合を図りつつ、道立江差病院への入院集約化を目指す。また、各国保病院、診療所における「地域包括ケア」機能の強化も図っていく。

【今後の課題・取組予定など】

(救急医療の集約化)

救急に係る費用については、各町立病院・民間の病院は、道が実施する「休日夜間診療確保対策事業」の補助の対象となっているが、今後、地域の夜間の救急医療を一手に担う道立江差病院は補助の対象外であり、何らかの支援が必要と考える。

(看護職員の確保)

医師、看護職員等の医療従事者不足が深刻な状況であり、早急な対応が必要であることから、地域医療連携推進法人南檜山メディカルネットワーク事務局と法人オプジーバーである江差保健所でホームページ作成等の方策について、検討を開始。

(今後の病床機能の検討)

病床集約については、法人発足時に構成団体間の基本的な合意は得られているが、各医療機関・各自治体（含む議会・住民等）の置かれている事情や考えもあり、それらのことを踏まえ、協議を進めていく必要がある。

重点課題の取組状況等について

圏域名	北渡島檜山
-----	-------

重点課題	1 「それぞれの病院における将来的な役割・機能等の在り方と検討」 2 「人口減少を見据え、各病院での連携強化による急性期機能の集約化」 3 「在宅医療の提供体制の構築に向けた、地域における役割分担の明確化及び連携体制の推進について」
------	--

【概要】 【主な検討経過】 【今後の課題・取組予定など】	<p>1 患者の受療動向や将来人口推計等を踏まえた、圏域内の医療連携体制を構築するため、各病院の役割・機能等の在り方を検討する。</p> <p>2 近未来である2025年に向け、急性期病床の圏域の中核病院への集約化を検討する。</p> <p>3 退院支援から看取りまでカバーする在宅医療体制の構築を目指し、医師、歯科医師、コメディカル及び介護職員等の多職種による協議会を組織し、連携を推進することで、在宅医療体制の構築を目指す。</p> <p>○ 令和5年8月開催の北渡島檜山圏域地域医療構想調整会議では、令和2年8月に国立八雲病院が廃院したこと等により、想定する病床数に近づいていることを確認。</p> <p>○ また、2025年には急性期病床の9割程度が中核病院である八雲総合病院へ集約される見込みについて情報共有。</p> <p>○ 令和6年3月開催の同会議では、せたな町立国保病院と八雲町熊石国保病院の建て替え計画に係る進捗状況について情報共有。</p> <p>○ また、在宅医療提供体制の構築については、地域における役割分担の明確化と連携推進の検討に資するため、令和6年1月～2月に、医療・介護医療サービス関係者を対象に、必要なサービスや従事者向け研修内容等、現場ニーズを把握するための圏域独自の意向調査を実施し、その結果について情報共有している。</p> <p>○ 各病院における病床機能の転換や病院建て替え計画に基づく非稼働病床のスリム化などについては、国立八雲病院の廃院や熊石国保病院の建て替えに伴う病床削減等により、構想の実現に向けて順調に推移しており、調整会議において、2025年の病床削減の取組は概ね達成されたものと整理されている。</p> <p>○ 在宅医療提供体制の構築を図るため、令和6年1月～2月に実施した独自調査結果を踏まえた、在宅医療専門部会等での議論を通じ、地域における役割分担の明確化と連携推進等について、検討を進める。</p>
---	---

重点課題の取組状況等について

圏域名	後志
-----	----

重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少を見据えた急性期機能のあり方 ・ 医療機関の機能等の役割分担 ・ 在宅医療の提供体制の確保
------	---

<p>【概要】</p> <p>○ 後志圏域においては、今後、圏域では大幅な人口減少（特に小樽市）が予想されるが、公立・公的医療機関では急性期を担っており、診療科も被っている状況。</p> <p>「地域医療連携推進法人」という選択も視野に入れた医療機能の役割分担や医療と福祉の連携・役割分担を視野に入れた在宅医療の提供体制について協議を行っていく必要がある。</p> <p>【主な検討経過】</p> <p>○ 令和2年3月 第2回後志圏域地域医療構想調整会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療構想推進シートの反映 <p>○ 令和2年7月 第1回後志圏域地域医療構想調整会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 済生会小樽病院と西小樽病院の統合・病床及び機能の見直し <p>○ 令和3年3月 第2回後志圏域地域医療構想調整会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療構想推進シートの反映 <p>○ 令和3年8月 第1回後志圏域地域医療構想調整会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度（2021年度）病床機能再編支援事業計画について（ニセコ医院） ・ 地域医療構想調整会議における重点課題の取組状況（地域医療連携推進法人の検討） <p>○ 令和4年3月 第2回後志圏域地域医療構想調整会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域医療構想等について（在宅医療の推進） ・ 地域医療構想推進シートの反映 ・ 有床診療所の廃止・変更・転換（北川眼科医院・ニセコ医院・蘭越診療所・中垣内科小児科医院・古平町立診療所海のまちクリニック） <p>○ 令和4年9月 第1回後志圏域地域医療構想調整会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病床機能の転換（札幌病院）

- 令和5年3月 第3回後志圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 病床機能の変更（札幌病院・倶知安厚生病院）
 - ・ 地域医療構想推進シートの反映
- 令和6年3月 第3回後志圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 地域医療構想推進シートの反映

【今後の課題・取組予定など】

1 人口減少を見据えた急性期機能のあり方

後志圏域の医療は、地理的要因として、人口の半数以上を占める小樽市が圏域の東端にあり、また豪雪地帯のため冬期間の交通も制限されることから、小樽市と小樽市以外の「北後志」「羊蹄山麓」「岩宇」「南後志」の生活圏において、それぞれ中核となる病院を中心に地域の医療を展開している現状。

そのため、医療機能の確保や役割分担に当たり、小樽市とそれ以外の地域を分けて取り組む必要がある。

2 医療機関の機能等の役割分担

2025年（令和7年）における回復期の必要病床数856床に対し、令和3年度の病床機能報告は383床となっており、473床の不足を生じている状況だが、必要病床数が患者のレセプトデータによる推計値なのに対し、病床機能報告制度は、医療機関からの自主申告であるうえ、病棟単位の報告となっており、この差を単純に比較することはできないことから、実際に将来不足する回復期病床が明確ではないため、回復期病床の確保に向けた取組に向けた協議を進めるのが難しい。

回復期機能の定義が「急性期を経過した患者への医療やリハビリテーションを提供する機能」と定義されたことから、報告データや各病院の診療実態等を検証しながら、将来不足する回復期病床の確保に向け、検討を進める。

3 在宅医療の提供体制の確保

後志圏域内における在宅医療については、終末期を含め24時間体制で患者の急変等に対応できる在宅療養支援病院・診療所が1病院、20診療所（R3. 4. 1現在）、また訪問看護ステーションは20事業所（R3. 4. 1現在）となっている。

今後の高齢者の増加に対し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、受け皿となる在宅医療の提供体制の確保、医療と介護が連携した地域包括ケアシステムを構築していく必要がある。

【参 考】

重点課題の取組状況等について

圏域名	札幌
-----	----

重点課題	各地域で顔の見える連携体制を構築すること。
------	-----------------------

【概要】

- 札幌圏域は、多くの地域で、2025年以降も2040年に向けて高齢者人口が大幅に増加する点、公立・公的医療機関のほか多数の民間医療機関が医療を提供している点において、他の圏域と大きく異なり、調整会議等において、個々の医療機関の役割・機能等について議論を深めていくことは困難な状況にある。
- 2040年に向けて、各医療機関における中長期的な視野に立った検討・取組に資するよう、各地域で顔の見える連携体制（互いの現状・課題を継続的に共有する場）を構築することを重点課題として設定。
- そのため、地域医療に精通している各医師会長、病院協会、公立病院の院長等12名の委員をメンバーとした札幌圏域個別調整部会を設置し、病床機能の転換等の個別案件や地域医療介護総合確保基金等・計画について、より効率的に協議を進めている。

【主な検討経過】

- 令和5年度及び6年度の会議の開催状況（予定含む）
 - ・ 札幌圏域地域医療構想調整会議（親会）
 - 令和5年度 5回（うち書面1回）
 - 令和6年度 5回（うち書面2回）
 - ・ 札幌圏域個別調整部会
 - 令和5年度 4回
 - 令和6年度 4回
- 主な審議事項
 - ・ 病院、診療所の病床機能の転換等に係る協議・情報共有（令和5年度 延べ26件）
 - ・ 医療型短期入所施設（有床診療所）の開設について（石狩市）
 - ・ 地域医療介護総合確保基金等・計画について（病床機能再編支援事業費給付金、病床機能分化・連携促進基盤整備事業）

- ・ 外来医療機能に関する意向確認について
- ・ 紹介受診重点医療機関について
- ・ 医師の働き方改革～特定労務管理対象機関について

【今後の課題・取組予定など】

- ・ 地域で不足する外来医療機能の確保に向けた協議

重点課題の取組状況等について

圏域名	南空知
-----	-----

重点課題	岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院の統合について
------	----------------------------

【概要】

- 南空知圏域における課題を踏まえ、「岩見沢市立総合病院と北海道中央労災病院は、人口減少化における急性期機能の維持・強化を図るため機能集約化など再編統合に向けた議論を進めていただきたい」旨、道から論点提起がなされた。
- 設置者間での協議の結果、令和3年7月統合に向けた基本合意書の締結、令和4年2月新病院の骨格（案）、同年9月には開院予定時期を令和10年春とする新病院建設基本計画が策定され、再編統合に向けた具体的な取組が順次進められている。
- 新病院のレイアウト、平面計画を両病院で進めているが、今後、実施設計及び工事に当たり、コスト縮減の可能性を検討しながら事業推進を図る。
- 令和6年7月26日、岩見沢市議会新病院建設特別委員会において、経営統合時期を令和8年4月に前倒しと、新病院規模の見直しに係る中間報告が公表された。

【主な検討経過】

- 令和4年9月 南空知圏域地域医療構想調整会議（書面）
 - ・ 建設基本計画（案）と圏域地域医療構想との整合性に係る意見聴取
- 令和5年3月 南空知圏域地域医療構想調整会議（Web 及び対面）
 - ・ 地域医療構想推進シートへの反映
- 令和5年9月 南空知圏域地域医療構想説明会（対面）
 - ・ 進捗状況の共有
- 令和6年3月 南空知圏域地域医療構想調整会議（対面）
 - ・ 地域医療構想推進シートへの反映
- 令和6年7月 南空知圏域地域医療構想調整会議（書面）
 - ・ 両病院の統合に伴う新病院施設規模見直し

【今後の課題・取組予定など】

- 圏域の調整会議として、引き続き、必要に応じ、新病院の急性期機能の維持・強化、機能集約などの取組が円滑に進むよう、議論展開していく。

【参 考】

重点課題の取組状況等について

圏域名	中空知
-----	-----

重点課題	医療機関の病床機能分化と医療資源の有効な活用のための連携強化
------	--------------------------------

【概要】

- 中空知区域では砂川市立病院と滝川市立病院が、主に急性期の医療を担っている状況であり、特に地域センター病院である砂川市立病院には、入院・外来ともに患者が集中している状況にある。

砂川市立病院については、地域救命救急センターであることで重症患者の救急搬送が多く、患者がそのまま入院することも多くなっており、急性期から回復期を経て慢性期までの入院医療や、外来・在宅医療に円滑に移行することが必要となっているため、砂川市立病院を紹介受診重点医療機関とすることにより、受診の流れを明確化し、砂川市立病院においては急性期に特化、各医療機関については急性期後の患者の受け入れを強化することで、中空知地域全体として医療提供体制を維持していく。

- 医師や看護師等の専門職の不足や医師の働き方改革による勤務時間制限、医師の高齢化等により、地域内の各医療機関では医療機能の維持に苦慮している状況がある。限られた医療資源の有効な活用のため、初診患者や症状が安定した患者の外来医療は居住地の医療機関を受診するよう誘導する等、医療機関や行政が連携して取り組むことが必要。

【主な検討経過】

- 令和6年8月 第1回中空知地域医療構想調整会議
 - ・ 地域医療構想、地域の状況説明
 - ・ 紹介受診重点医療機関（砂川市立病院）の協議

【今後の課題・取組予定など】

- 厚生労働省における「地域医療構想推進区域」として、医療提供体制上の課題を「区域対応方針」により進めていく（令和6年10月選定予定）。
- 意向調査により各医療機関の役割分担を明確にする（令和6年11月意向調査）。
- 専門部会の開催により、病床機能分化・医療連携のための情報共有・意見交換を行う。（令和6年12月頃予定）

重点課題の取組状況等について

圏域名	北空知
-----	-----

重点課題	地域包括ケアシステムの更なる充実にに向けた医療・介護機能の確保について
------	-------------------------------------

【概要】

- 北空知圏域においては、一般病床及び療養病床を有する医療機関は深川市内に3病院あるが、地域センター病院である深川市立病院のみが一般病床を有し、急性期医療と回復期医療を担っており、他の2つの民間病院はいずれも療養病床のみを有し、慢性期医療を担っている。

現状では、3病院の病床機能は、急性期と慢性期というくくりで見ると、一定の棲み分けがなされているが、今後、高齢化や社会構造の変化が進む中、在宅医療等に対応した的確なサービス提供体制が必要であり、地域包括システムの更なる充実を図るため、医療と介護が連携した取組を進めていくことが必要であることから、重点課題として設定した。

【主な検討経過】

- 令和4年3月 北空知圏域地域医療構想調整会議（書面開催）
 - ・ 重点課題進捗状況の報告
 - ・ 地域医療構想推進シートへの反映
- 令和5年5月 第1回北空知圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 重点課題進捗状況の報告
 - ・ 地域医療構想推進シートへの反映
- 令和5年10月 第2回北空知圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 医療、介護に係る地域の状況を報告
- 令和6年5月 第1回北空知圏域地域医療構想調整会議（書面開催）
 - ・ 地域医療構想推進シートへの反映
- 令和6年9月 第2回北空知圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 地域医療構想等の関する説明について

【今後の課題・取組予定など】

- 北空知圏域の1市4町で設置し、深川市立病院が事務局を担って在宅医療や在宅介護の提供体制を推進する「北空知地域医療介護確保推進協議会」と連携し対応していく。

重点課題の取組状況等について

圏域名	西胆振
-----	-----

重点課題	① 医療機関の役割について ② 将来、過不足が見込まれる病床機能の把握について ③ 病床が全て稼働していない病棟を有する医療機関への対応
------	--

【概要】

○ 上記3項目の重点課題について、次のとおり地域医療構想調整会議の協議等を踏まえながら取組を進めている。

課題	取組等の概要
① ・ ②	・ 国が実施した診療実績の分析等に基づき、今後の役割、病床機能別の病床数、診療科の見直し等の具体的対応方針の再検証の対象となった医療機関における措置状況の把握 ・ 各医療機関の具体的対応方針について、毎年度実施する「地域医療構想の推進に係る意向調査」等で把握するとともに、当該方針に基づく病床再編・転換等計画の推進管理及び情報共有
②	・ 非稼働病棟等を有する医療機関の今後の運用見通し等について、引き続き意向調査、個別確認等による把握及び情報共有

【主な検討経過】

○ 地域医療構想調整会議による協議等

開催時期	協議等の概要
令和元年 12 月	・ 重点課題の設定
令和 2 年 12 月	・ 医療機関 a ➡ 具体的対応方針の再検証に係る協議
令和 3 年 3 月	・ 重点課題の取組状況等を地域医療構想推進シートに反映
令和 4 年 2 月	・ 医療機関 b ➡ 具体的対応方針の再検証に係る協議 ・ 医療機関 c ➡ 介護施設への転換に係る協議 ・ 重点課題の取組状況等を地域医療構想推進シートに反映
令和 4 年 11 月	・ 医療機関 d ➡ 病床再編に係る協議
令和 5 年 1 月	・ 医療機関 e ➡ 病床再編に係る協議 ・ 医療機関 f ➡ 病床再編に係る協議 ・ 医療機関 g ➡ 病床機能の転換に係る協議
令和 5 年 3 月	・ 医療機関 h ➡ 病床機能の転換に係る協議 ・ 重点課題の取組状況等を地域医療構想推進シートに反映
令和 6 年 3 月	・ 重点課題の取組状況等を地域医療構想推進シートに反映

【今後の課題・取組予定など】

- 圏域における病床再編等の状況については、引き続き「地域医療構想の推進に係る意向調査」等において把握及び進捗管理するとともに、重点課題の取組状況等を反映した地域医療構想推進シート等により情報共有を図る。
- 今年度から室蘭市内3病院（市立・日鋼・製鉄）の統合・再編等に係る「室蘭市地域医療連携・再編等推進協議会」が再開されたところであり、圏域における今後の医療提供体制の構築など、地域医療構想の推進に関連することから、当該協議会等の動向を踏まえ、必要に応じて地域医療構想調整会議等において情報共有を図る。

【参 考】

○ 西胆振区域における病床数の比較

区 分	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合 計
(A) 地域医療構想 (R7 推計)	279	800	620	1127	—	2826
(B) 現状病床数 (R5.7.1 現在)	42	1208	652	1038	211	3151
(C) 意向調査 (R7 意向)	98	1197	611	1158	158	3222
(B) 現状 - (A) 推計	▲237	408	32	▲ 89	—	325
(C) 意向 - (A) 推計	▲181	397	▲ 9	31	—	304

○ 再検証・病床再編等の経過

区 分	高 度 急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合 計	備 考
医療機関 a			▲ 25	▲ 68		▲ 93	
医療機関 b		▲ 2	1		▲ 88	▲ 89	
医療機関 c					▲ 17	▲ 17	
医療機関 d		▲ 22				▲ 22	
医療機関 e	▲ 18	▲ 66		▲ 47		▲131	
医療機関 f		8		▲ 44	▲ 8	▲ 44	
医療機関 g						0	慢性期(60) 一般 → 療養
医療機関 h			48	▲ 48		0	
合 計	▲ 18	▲ 82	24	▲207	▲113	▲396	

重点課題の取組状況等について

圏域名	東胆振
-----	-----

重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療機関における役割・機能の分担と連携 ② 医療機関と介護サービス・在宅医療との連携体制の構築 ③ 公立病院における 2024 年度以降の取組方針
------	---

【概 要】

○ 東胆振圏域においては、上記3項目を重点課題として設定し、次の事項に留意しながら取組を進めている。

- ① 令和4年意向調査における稼働病床数は、2025年の必要病床数と比較して急性期が526床多く回復期が499床少なかったことから、引き続き、医療機関の役割・機能分担、連携について、定期的に協議し情報共有を図っていく必要がある。
- ② 各病院の病床利用率が高い(70.29%)ことから、地域における医療需要や住民ニーズを勘案しながら、介護サービスや在宅医療との連携体制の構築を進めるなど、医療提供体制の充実を図る必要がある。
 なお、現在、保健所と苫小牧市等が連携し、「入退院支援に係る医療と介護の連携」に係るガイドラインやマニュアルの作成に向け、病院関係者や介護保険関係者等を構成員とするワーキンググループにおいて、検討・協議を進めているところである。
- ③ 3つの公立病院（苫小牧市立病院、白老町国民健康保険病院及びむかわ厚生病院）が地域で大きな役割を担っており、令和6年（2024年）3月に策定された公立病院改革プランとの整合性を図りながら、地域医療構想を推進する必要がある

【主な検討経過】

- 令和5年3月（2023年） 東胆振地域医療構想調整会議病院会
 - ・新型コロナウイルス感染症5類移行後の受け入れ体制等の検討
 - ・重点課題の進捗状況と取り組み状況の共有
- 令和5年8月（2023年） 東胆振地域医療構想調整会議
 - ・紹介受診重点医療機関の協議の場
 - ・医療機器共同使用に係る情報共有
- 令和6年1月（2024年） 東胆振地域医療構想調整会議
 - ・各計画（北海道医療計画・北海道高齢者保健福祉計画・介

護保険事業支援計画・北海道感染症予防計画) 協議
・公立病院経営強化プラン(苫小牧市立病院・白老町国民健康保
険病院・むかわ厚生病院) 協議

【今後の課題・取組予定など】

- 医療機能の分担・連携、介護サービスや在宅医療との連携体制の構築等の課題が継続していることから、引き続き協議を行う。
- 新たな地域医療構想に関する国や道の動きについて情報共有を行う。

【参 考】

重点課題の取組状況等について

圏域名	日高
-----	----

重点課題	①回復期病床の確保 ②医師及びその他医療従事者等の確保
------	--------------------------------

【概要】

- 当圏域においては、現状、回復期病床が深刻に不足しており、医師及びコメディカル関係者の確保が難しい状況も相まって、2025年度時点における必要数と現状病床見込み数に大きく開きがある。

【参考】

回復期病床	2025年度時点	必要病床数	259床
	本票提出時点	確保病床数	110床

- 当圏域における人口10万対医療施設医師数は、全道二次医療圏別に比較しても、下位グループに属する医師不足の著しい圏域である。
医師及びその他医療従事者等の確保については、各医療機関において確保方策に取り組んでいるが、なかなか不足解消には至らないのが現状。
- また、回復期病床を退院し在宅に移行した場合、その受け皿として必要になる介護・福祉資源すら不足している実態にあり、回復期病床が有期であることも重なって、病床確保が進まない要因の一つとなっている。

【主な検討経過（R6年度）】

- 令和6年7月 第1回日高圏域地域医療構想調整会議
 - ・地域医療構想等説明会
 - ・令和5年度実績版地域医療構想推進シートの確定
 - ・管内医療機関の病床調整に係る協議
- 令和6年9月 第2回日高圏域地域医療構想調整会議
 - ・管内医療機関の特定地域医療提供機関指定申請に係る地域協議
 - ・管内医療機関の病床調整に係る協議

【今後の課題・取組予定など】

- 高齢化と人口減少は着実に進んでおり、日高圏域に至っては先駆けて高齢者人口が減少期に入っている。引き続き重点課題について取組み、地域医療構想の推進に向け協議を進めていきたい。

重点課題の取組状況等について

圏域名	上川中部
-----	------

重点課題	人口構造・疾病構造の変化を見据えた回復期機能の確保及び在宅医療の確保
------	------------------------------------

【概要】

○ 回復期機能の確保

将来的に、回復期病床が不足する見込みとなっており、令和元年に回復期機能の確保を重点課題に設定。

2025年に想定されている必要病床数（高度急性期 689 床、急性期 1,795 床、回復期 1,613 床、慢性期 1,528 床、合計 5,625 床）に対し、令和5年度に実施した「地域医療構想の推進に関する意向調査」の2025年の病床見込数は（高度急性期 1,354 床、急性期 1,894 床、回復期 1,168 床、慢性期 1,529 床、休棟 161 床、合計 6,106 床）という結果であり、引き続き、回復期機能の確保の取組を継続していく。

○ 在宅医療の確保

長期療養や介護を要する患者が、病気と共存し、生活の質の維持・向上を図りつつ療養生活を継続するために、在宅医療の確保及び提供体制の整備が必要であるため、令和元年に重点課題に設定。

在宅医療を行う医療機関において、サービス提供体制や関係機関との連携等が課題となっており、今後増加する在宅医療の需要に対応するため、それら課題への取組を進める必要がある。また、在宅療養支援病院や在宅療養支援診療所の多くが旭川市内に集中しており、周辺町の在宅医療等の確保も課題となっている。

【主な検討経過】（重点課題関係）

○ 令和元年度 上川中部圏域地域医療構想調整会議 合計3回開催

- ・ 上川中部圏域における「重点課題」（案）の検討
- ・ 医療部会の報告「上川中部圏域における「重点課題」について」
- ・ 病床機能に係る病院開設等計画について
- ・ 地域医療構想推進シートの更新について 等

○ 令和2年度 上川中部区域地域医療構想説明会及び上川中部圏域地域医療構想調整会議 合計3回開催

- ・ 地域医療構想の推進に関する意向調査の実施及び結果について
- ・ 地域医療構想推進シートの更新について
- ・ 「地域医療構想の推進に関する意向調査」の結果について

○ 令和3年度 上川中部圏域地域医療構想調整会議 合計2回開催

- ・ 病床機能に係る病院開設等計画について

- 令和4年度 上川中部圏域地域医療構想調整会議 合計3回開催
 - ・ 令和3年度地域医療構想推進シートの更新について
 - ・ 病床機能再編等計画について
 - ・ 「地域医療構想の推進に関する意向調査」の結果について
 - ・ 病床機能転換等計画、進捗状況について
 - ・ 地域医療構想推進シートの更新(案)について
- 令和5年7月 令和5年度第1回上川中部圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 法人の吸収合併に伴う病床機能再編計画について
- 令和5年8月 令和5年度上川中部圏域地域医療構想説明会
(第2回上川中部圏域地域医療構想調整会議)
 - ・ 地域医療構想推進シートの概要
- 令和6年2月 令和5年度第5回上川中部圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 病床機能転換等計画の進捗状況について
 - ・ 医療機関の病床転換計画について
 - ・ 地域医療構想推進シートの更新(案)について
- 令和6年6月 令和6年度第1回上川中部圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 病床機能に係る病院開設計画について
- 令和6年8月 令和6年度上川中部圏域地域医療構想説明会
(第2回上川中部圏域地域医療構想調整会議)
 - ・ 地域医療構想推進シートの概要

【今後の課題・取組予定など】

- 医療データ分析センターによる受療動向等の分析データや、病床機能報告・外来機能報告及び意向調査等の結果を共有、圏域内の状況、課題や病床機能の集約及び役割分担に向けた議論を進めていく。
- 地域医療構想の推進管理に係る工程表として作成している「地域医療構想推進シート」を更新し、圏域内での取組状況の共有を図り、今後の方針について協議し、合意を得る。

重点課題の取組状況等について

圏域名	上川北部
-----	------

重点課題	基幹病院における急性期機能の維持と回復期・慢性機能の役割分担
------	--------------------------------

【概要】

○ 上川北部圏域においては、今後の人口減少等を見据えて、圏域全体で効果的に医療を提供するため、名寄市立総合病院における急性期機能を維持し、地域の受け皿となる回復期・慢性期機能の役割分担を明確にして、連携強化を図る必要があることから、重点課題として設定。

【主な検討経過】

- 令和2年 1月 令和元年度第3回上川北部区域地域医療構想調整会議
 - ・名寄市立総合病院と士別市立病院連携協議の経過報告（地域医療連携推進法人の設立に向けた協議）
- 令和2年 7月 令和2年度第2回上川北部区域地域医療構想調整会議
 - ・名寄市医療介護連携ICT ポラリスネットワーク計画の協議
 - ・地域医療連携推進法人「上川北部医療連携推進機構」認可申請の協議（令和2年9月に設立）
 - ・国民健康保険町立和寒病院（30床）の無床診療所に関する協議（令和3年4月に無床診療所に転換）
- 令和3年 8月 令和3年度第1回上川北部区域地域医療構想調整会議
 - ・病床機能分化・連携促進基盤整備事業の活用による病床削減に関する協議（R4.3.31 士別市立病院 148床→133床）
 - ・病床機能分化・連携促進基盤整備事業の活用による事業計画の協議（名寄市立総合病院）
- 令和4年度 令和4年度第1回～第4回上川北部区域地域医療構想調整会議
 - ・重点課題進捗状況の報告
- 令和5年度 令和5年度第1回～第7回上川北部区域地域医療構想調整会議
 - ・名寄市病院事業経営強化プランの策定に関する協議
 - ・重点課題進捗状況の報告
 - ・紹介受診重点医療機関に関する協議
- 令和5年 11月 病棟再編計画に関する協議

(R6.4 士別市立病院 133床 → 129床)

12月 ・病棟再編計画に関する協議

(R6.1 JA北海道厚生連美深厚生病院

一般52床、療養12床 → 一般12床、療養52床)

【今後の課題・取組予定など】

【重点課題】

- 今後の人口減少を踏まえて、圏域全体で効率的な医療を提供するため、基幹病院における急性期機能を維持し回復期・慢性期機能の役割分担を明確にして、連携強化を図る。

【今後の方向性】

- 今後の各医療機関の動向について、意向調査や国のデータ等により把握し、各機能の必要量を維持・確保し、各機能の必要量を維持・確保していく。
また、新興感染症への対応を踏まえた医療提供・連携について協議を行う。
- 非稼働病床（85床）の今後の活用が課題となり、病床再稼働の時期や将来不足が見込まれる医療機関への転換等について検討が必要。

重点課題の取組状況等について

圏域名	富良野
-----	-----

重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 医療機関の役割分担の具体化及び再編に向けた検討について ○ 病床機能（回復期病床）の確保について ○ 在宅医療の提供体制について
------	--

【概要】

- 富良野圏域は、医師・看護師・助産師などの医療従事者の確保が困難な地域であるため、限られた医療資源を有効活用し、地域センター病院を中心とした医療体制をどのように維持していくか、今後の人口構成や医療需要の変化を念頭において検討していく必要がある。
- 令和5年度の推進シートにおける回復期病床の確保については、令和7年度の必要病床177床に対し、意向調査の結果では138床と39床が不足となっている。また、休床している病床もあることから、病床必要量の確保に向け、さらなる協議が必要。
- 在宅医療を担う医療機関（医科診療所4ヶ所、歯科診療所4ヶ所）が限られているため、訪問看護ステーションとの連携などにより充実が図られるよう、検討を行う必要がある。
- 医療機関相互の機能分担や業務の連携を推進し、地域医療構想を達成するために、管内の地域センター病院が中心となり、地域医療連携推進法人を設立した。

【主な検討経過】

- 令和6年7月 第1回富良野圏域地域医療構想調整会議・第1回医療専門部会
 - ・ 地域医療構想等に関する国及び道の動きについて
 - ・ 地域の状況
 - ・ 北海道医療計画富良野地域推進方針（外来医療分）について
 - ・ 病床機能再編支援事業計画書について

【今後の課題・取組予定など】

- それぞれの医療機関が主体的に機能区分を決定していくことを大前提としつつ、医師会等の医療関係者との十分な協議を経ながら、必要な地域医療体制の整備に向け取り組む。

- 各医療機関の機能区分を把握しつつ、今後の少子・高齢化に伴う人口構造や疾病構造の変化や必要な医療従事者の確保等を踏まえながら、関係者との協議により区域内における病床機能ごとの必要な病床数の確保について検討する。
- 自宅等で疾病を抱えつつ生活を送る者が今後も増加していくことから、慢性期の医療ニーズに対する受け皿である在宅医療については、適切な提供体制を整備するため、富良野保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会等で需要の把握や検討を行い取り組みを進める。
- 地域医療連携推進法人「ふらのメディカルアライアンス」による取組
 - 1 目的・業務
富良野圏域において、将来にわたり持続可能な医療提供体制を確保するため、医療連携推進方針に基づき、参加病院等相互の機能分担及び業務連携に関する医療連携推進業務を行い、地域医療構想の達成及び地域包括ケアシステムの構築に資することを目的とする。
 - 2 参加法人
 - (1) 社会福祉法人北海道社会事業協議会(富良野協会病院、介護老人保健施設ふらの、老健ふらの訪問看護ステーション)
 - (2) 富良野市(富良野市立山部診療所)
 - (3) 中富良野町(なかふらのクリニック、特別養護老人ホームこぶし苑)
 - 3 今後の取り組み予定(R6)
 - 医療安全講習会や感染症対策講習会の実施
 - 中富良野町立病院の無床化(現なかふらのクリニック)に伴う、看護師の富良野協会病院への派遣
 - 設備の共同利用や医薬品の共同購入の検討
 - 多職種連携情報共有のためのシステムの導入
 - 4 経過
 - 令和5年11月 一般社団法人設立
 - 令和6年 3月 北海道知事より地域医療連携推進法人の認定を受ける。
 - 令和6年 3月 名称の変更登記「地域医療連携推進法人 ふらのメディカルアライアンス」

重点課題の取組状況等について

圏域名	留萌
-----	----

重点課題	地域医療を確保するための医師及び医療従事者の確保
------	--------------------------

【概要】

- 今年度から管内の病院数が7病院から5病院に減少。病床数も100床減少しており、療養病床等が逼迫している。
- 地域の中核病院等においては大学病院からの派遣医師数が著しく減少し、公立診療所等においては高齢等で退職した医師の後任の採用が困難になるなど、医師確保が難渋している。
- 個々の医療機関や市町村の努力だけでは医師確保には限界があり、国や北海道による対策が急務である。

【主な検討経過】

- 令和6年8月 留萌保健医療福祉圏域連携推進会議（兼 地域医療構想調整会議）
留萌地域推進方針などについて協議
- 令和6年9月 留萌保健医療福祉圏域連携推進会議（兼 地域医療構想調整会議）
医療従事者確保などをテーマに意見交換

【今後の課題・取組予定など】

- 北海道全体での医師確保のための抜本的な対策が必要であり、そのための協議の場が必要であると考えます。

重点課題の取組状況等について

圏域名	宗谷
-----	----

重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ○不足している医療機能（回復期機能）の確保 ○ICT を活用した地域ネットワークの構築 ○在宅医療の確保 ○医師をはじめとする医療従事者の確保
------	--

<p>【概要】</p> <p>○不足している医療機能（回復期機能）の確保 当圏域における 2025 年の必要病床数は回復期「271 床」、慢性期「156 床」とされているが、令和 6 年 7 月現在の病床数は、回復期「139 床」、慢性期「75 床」となっており、回復期で「132 床」慢性期で「81 床」を確保していく必要がある。</p> <p>○ICT を活用した地域ネットワークの構築 当圏域では、名寄市立総合病院を中心とした道北北部医療連携ネットワーク（ポラリスネットワーク）が稼働しているが、設備の老朽化やシステム更新に伴う財政負担が課題となっている。また、ネットワークの充実を図るための遠隔医療などのネットワークの構築が必要である。</p> <p>○在宅医療の確保 当圏域では、在宅医療を実施している医療機関は複数あるものの、在宅療養支援病院はなく、また、在宅療養支援診療所は 1 施設のみとなっている。さらに、訪問看護サービスを受けられない地域が 1 町あるなど在宅医療に係る資源が不足している。 今後、必要な在宅医療を確保するため、医療や介護従事者の確保をはじめ、地域住民への在宅医療の理解促進のための普及啓発も必要である。</p> <p>○医師をはじめとする医療従事者の確保 当圏域では、人口 10 万人あたりの医師数が全道平均を大きく下回っており、また、看護職員についても全道平均を下回っているなど医療従事者が不足している状況であり、各医療機関等においては医療従事者の確保に苦慮している。特に地域センター病院である市立稚内病院においては、複数の診療科で常勤医が不足しており、医師確保は喫緊の課題である。 また、圏域における回復期機能の確保や在宅医療を推進するためには、医師等の医療従事者の確保が必要である。</p>
--

【主な検討経過】

〈令和元年度〉

- 令和元年（2019年）8月9日第1回 宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議
 - ・重点課題に係る議論の進め方を提示
- 第2回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・重点課題の設定
- 第3回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・重点課題に係る説明及び進捗状況の報告
- 第4回 宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・地域医療構想推進シートへの反映

〈令和2年度〉

- 第1、3回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・重点課題進捗状況の報告

〈令和3年度〉

- 第1、4、5回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・地域医療構想推進シートへの反映
- 第3、4回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・重点課題進捗状況の報告

〈令和4年度〉

- 第2、3回、4回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・重点課題進捗状況の報告
- 第4回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・地域医療構想推進シートへの反映

〈令和5年度〉

- 第1回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・重点課題進捗状況の報告
- 第3回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・地域医療構想推進シートへの反映

〈令和6年度〉

- 第2回宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議・重点課題進捗状況の報告、確認

【今後の課題・取組予定など】

- 宗谷保健医療福祉圏域連携推進会議（兼地域医療構想調整会）において、継続し会議構成員、医療機関等と取組状況の共有を図る予定。

重点課題の取組状況等について

圏域名	北網
-----	----

重点課題	在宅医療等の提供体制の確保
------	---------------

【概要・これまでの取組】

○ 訪問診療について

北網圏域の訪問診療は、訪問件数及び患者数は北見、網走共に増加傾向であるが、病院での実施率は、北見(38.9%)で全道(34.0%)より高く、網走(28.6%)は低い。診療所での実施率は、北見(10.4%)、網走(8.3%)と、全道平均(13.6%)より低い状況。

在宅療養支援病院の届出数は増加しているが、在宅療養支援診療所の届出数は北見網走ともに減少している。1医療機関当たりの訪問診療件数は、月平均10件未満の割合が北見(37.5%)、網走(25.0%)と、全道(44.4%)より低い状況。

⇒ 1医療機関が実施する訪問診療件数は多く、実施している医療機関の負担が大きいと考えられる。

○ 多職種連携について

道(保健所)においては、北網保健医療福祉圏域連携推進会議における在宅医療専門部会のワーキングチームとして、北見地域多職種連携チーム及び網走地域多職種連携チームを設置。多職種合同研修会の開催や地域課題の検討を実施している。

市町においては、在宅医療・介護連携推進事業を実施し、実際に地域において起きた事例について課題の共有や対応の検討を行っている。

○ 在宅医療・救急医療連携ワーキングチームの結成(北見市)

高齢化の進展に伴い、在宅や施設で最後まで療養することを希望していても、急変時に本人の意思に反して救急搬送されるケースが増加することが懸念されている。

北見市では令和4年度、厚生労働省主催の「在宅医療・救急医療連携セミナー」を開催。新たな取り組みとして令和5年9月に地域における在宅医療・救急医療等の関係者間の連携体制の構築を通じ、人生の最終段階において本人の意思が尊重されるための課題と解決策を検討することとしてチームを発足したところ。

特に人生の最終段階における医療・ケアに関する本人の意思が尊重されることを目的に、在宅医療と救急医療の関係者間で連携ルールの内容の検討や運用に向けた協議を行うこととしている。

⇒ 構成員：北見市高齢者等支援ネットワーク会議医療・介護連携推進部会内に当該部会構成団体及び関係団体並びに北網保健医療福祉圏域連携推進会議在宅医療専門部会 北見地域多職種連携チーム

【今年度の取組予定】

○北見地域多職種連携チームの取組

(1) 多職種合同研修会（北見市、北見市医療・介護連携支援センターと合同開催）

(ア) ケアマネジャー等に対する ACP の研修会

意思決定能力の低下に先立ち、ケアマネジャー等が ACP を話題とする技術を身につけることは市内のみならず広く普及できるとよい内容。また、取り組みについて多職種が知ることで、ACP に関わる今後の多職種連携推進の素地となることも期待できる。

(イ) 第 2 回在宅医療・救急医療セミナー「高齢者施設における急変時に備えた対応を考える」

様々な形態・体制の高齢者施設において、看取りの実施の有無に限らず、入所者の急変時の対応について備えておくことは、本人が望む医療・ケアの実現にもつながる内容である。高齢者に関わる医療・介護等の多職種が、急変時の対応に関する実態や課題を共有しながら、入所者の望む医療・ケアの実現について考えることで、ACP に関わる多職種連携推進の素地となることが期待できる。

(2) 在宅医療・救急医療連携ワーキングチーム会議との連携

（事務局：北見市、北見市医療・介護連携支援センター）

今年度は、救急隊における DNAR 意思表示事業の調査や、高齢者施設における救急対応や ACP 等の課題についての調査が予定されており、保健所は、北見地域多職種連携チームの事務局として会議への出席等、取り組みの共有を図っている。

○網走地域多職種連携チームの取組

(1) 網走地域多職種連携チーム会議の開催

在宅医療専門部会のワーキングチームとして、網走地域の在宅医療・介護に関わる多職種連携のチーム構成員及び必要な関係機関が集まり、各職域の課題について共有した。

取り組むべき課題として、在宅医療、介護及び障がい分野における連携の問題があり、課題解決に向けてワーキンググループを結成し、検討を進めることとした。

(2) 網走地域多職種連携ワーキンググループの取組

網走地域多職種連携チーム構成員によるワーキンググループを結成し、「在宅医療、介護及び障がい分野の連携」を促進するために研修会を開催することとした。

重点課題の取組状況等について

圏域名	遠紋
-----	----

重点課題	<p style="color: red;">① 人口減少を見据えた回復期機能（急性期経過後の受け皿、軽度急性期対応を含める）及び慢性期機能の確保</p> <p style="color: red;">② 地域医療における役割分担・連携に向けた意見交換の場の設定</p>
------	---

【概要】

- ① 遠紋圏域においては、現状、許可病床数のうち回復期病床は90床、慢性期病床は119床となっているが、2025年における必要病床数は回復期285床に対して195床不足しており、慢性期病床もここ数年で後継者不足や医療従事者不足を理由とした閉院や病院の診療所化により、必要病床数261床に対して142床と非常に大きく不足することが見込まれているため、継続した議論が必要。
- 圏域ではここ数年間、病床の減少傾向が続いていることから、令和4年度の調整会議において、回復期病床の不足問題に加え、慢性期病床の不足も取組の重点課題とする必要があるため、課題を一部見直し。
- ② 二次医療圏の病院と診療所の救急医療体制での連携に課題があることから、それぞれの役割分担の明確化、相互の連携や在宅医療を見据えた患者情報の共有ネットワーク構築に向けた議論が図られるよう、意見交換の場を設けてきたところ。

【主な経過】

- 令和元年10月 第1回調整会議医療専門部会にて課題設定について議論・意見照会
- 令和元年12月 第2回調整会議において課題の提示・設定
- 令和2年2月 第3回調整会議で検討状況の共有
- 令和4年9月 第1回調整会議にて課題の修正について説明・意見照会
- 令和5年1月 第2回調整会議医療専門部会にて修正（案）の説明・意見照会
- 令和5年3月 第2回調整会議にて協議・修正（慢性期不足を追加）
- 令和5年9月 第2回調整会議で課題の現状について共有
- 令和6年3月 第4回調整会議にて推進シートの更新
- 令和6年7月 第1回調整会議にて地域課題等について共有

【今後の課題・取組予定など】

- 不足する病床（回復期・慢性期）の維持・確保に向け、過剰（急性期）の病床も含めた圏域全体での議論をより一層進めていく必要がある。
- 医師、看護師を始めとした医療従事者不足による圏域全体の医療機能の低下が懸念される。

重点課題の取組状況等について

圏域名	十勝
-----	----

重点課題	人口構造・疾病構造を見据えた回復期病床の確保
------	------------------------

【概要】

- 「団塊の世代」が75歳以上を迎える2025年になると、医療・介護需要が増加するとみられており、高度急性期・急性期・慢性期の病床については現状を維持するが、不足する病床を整備する観点に立ち、十勝圏域においては重点課題を「人口構造・疾病構造を見据えた回復期機能の確保」に設定した。
- 管内の総人口は減少を続け、年少人口・生産年齢人口は大きく減少するが、65歳以上人口は10万超で推移し、高齢化率は右肩上がりとなり、2050年には総人口に対する割合が42.6%となることが推計される(参考資料1)。
また、2030年には後期高齢者人口が6万5千人超となり、65歳以上人口のうち6割に達し、2050年まで同規模で推移する。(参考資料2)。
病床数については、2025年必要病床推計より稼働病床数ベースで回復期は254床増加に相当する医療資源の確保が課題(参考資料3)。
- 「回復期病床を増やす」というだけでは課題の実現は困難であることから、医療・介護の複合ニーズを抱える高齢人口の増加に伴う対応が必要である。
本来、回復期病床は患者がリハビリなどにより自宅復帰を目指すものであるため、患者が退院後のバックアップを担う地域における在宅医療機関等との連携が必須であり、訪問診療を行う病院・診療所や医療機関の地域連携室、訪問看護ステーション、高齢者施設等との連携体制の強化について、地域医療構想調整会議等で議論を進めることが重要である。
- 圏域の医療機関の病床数について、令和5年度第3回地域医療構想調整会議において、1か所の医療機関では急性期病床を一部削減し、回復期病床へ転換の予定、別の医療機関は急性期病床を一部削減し、高齢化社会を見据えた専門的医療の提供の継続を行うという報告があった。また、今年度第1回の調整会議では同一法人内の異なる医療機関において、急性期病床を7床削減し、もう一方の医療機関の回復期病床を7床増床し、重点課題の実現に向け病床の見直しを行った。
また今後、地域医療介護総合確保基金等を活用した病床のダウンサイジングなどを検討している医療機関があり、将来の医療提供体制に向けた取組が進められており、地域医療構想調整会議においても議論を進める。
ただし、データの数値だけにとらわれず、医療機関が現状抱える問題等を考慮しながら柔軟に検討することが重要である。

【主な検討経過】

- R6年2月28日 令和5年度第三回十勝圏域地域医療構想調整会議
・令和4年度病床機能報告、地域医療構想推進シートの策定、医療機関における病床削減及び転換等について報告
- R6年5月30日 令和6年度第一回十勝圏域地域医療構想調整会議
・医療機関における病床削減、転換について報告

【今後の課題・取組予定など】

- 11月～3月 各専門部会(急性期・回復期・慢性期)及び調整会議において、令和5年度病床機能報告及び、意向調査の結果を共有し、課題について協議を進めていく。

【参 考】 参考資料 1～3

重点課題の取組状況等について

圏域名	釧路
-----	----

重点課題	① 急性期病院と回復期・慢性期病院との連携強化 ② 在宅医療提供体制の確保
------	--

【概 要】

- これまでの調整会議において、回復期の確保、在宅医療の確保、従事者確保を主な課題として協議しているが、意向調査の結果では、上記に加え、急性期の集約化や役割分担（救急医療体制を含む）、医療機関の再編・ネットワーク化を課題とする回答も相当数あり、それぞれに重要課題であり、かつ、相互に関連している状況。
- こうしたことから、持続可能な地域医療確保に向け、医師確保計画等に基づき医師等医療従事者の確保に努めつつ、バランスのとれた医療提供体制の構築を図ることを目的として、上記2点を重点課題とする。

【主な検討経過】

（令和元年度）

- 令和元年7月 第1回釧路圏域地域医療構想調整会議
・地域医療構想説明会
- 令和元年11月 第2回釧路圏域地域医療構想調整会議
・重点課題の設定
- 令和2年1月 第3回釧路圏域地域医療構想調整会議
・重点課題等に係る意見交換
- 令和2年3月 第4回釧路圏域地域医療構想調整会議
・地域医療構想推進シートの更新

（令和2年度）

- 令和2年7月 第1回釧路圏域地域医療構想調整会議
・市立釧路総合病院新棟建設計画に伴う圏域内の高度急性期の集約化や役割分担等について協議
- 令和2年9月 第2回釧路圏域地域医療構想調整会議
・医療機関の病床機能分化・連携促進事業計画に関する急性期から回復期病床への転換及び訪問診療の充実について協議
(釧路協立病院：急性期38床→回復期38床)

(令和3年度)

- 令和3年7月 第1回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 医療機関の病床機能再編支援事業計画に関する急性期病床の削減による医療従事者の確保について協議
(東北海道病院：急性期 14 床削減)
- 令和3年9月 第2回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 医療機関の病床機能分化・連携促進基盤整備事業計画に関する急性期病床の削減及び急性期から回復期病床への転換について協議
(釧路労災病院：急性期 50 床→回復期 33 床・17 床削減)

(令和4年度)

- 令和5年3月 第1回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 地域医療構想シートの更新

(令和5年度)

- 令和5年7月 第1回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - (釧路労災病院：急性期 50 床削減、高度急性期 8 床新設)
- 令和5年8月 第2回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 紹介受診重点医療機関の承認 (市立釧路総合病院)
 - ・ 公立病院経営強化プランの承認 (町立厚岸病院)
- 令和5年11月 第3回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 紹介受診重点医療機関の承認 (釧路労災病院)
- 令和6年1月 第4回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 特定労務対象機関の指定 (市立釧路総合病院、釧路労災病院)
 - ・ 公立病院経営強化プランの承認 (標茶町立病院)
- 令和6年2月 第5回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 特定労務対象機関の指定 (釧路赤十字病院)
- 令和6年3月 第6回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 地域医療構想シートの更新
 - ・ 公立病院経営強化プランの承認 (市立釧路総合病院)

(令和6年度)

- 令和6年5月 第1回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ 特定労務対象機関の指定 (釧路孝仁会記念病院)
- 令和6年8月 第2回釧路圏域地域医療構想調整会議
 - ・ (市立釧路総合病院：急性期 7 床削減、回復期 7 床増床)

【今後の課題・取組予定など】

- 各病院間で連携しながら回復期病床の確保を地域の課題として取り組んでいるが、看護師確保が困難な状況から、看護師不足によって病床の一部休床を余儀なくされている病院が増えている。また、病院だけではなく、訪問看護事業所でも看護師不足が深刻化しており、在宅医療を進めるためにも医療人材の確保は大きな課題となっている。

【参 考】

重点課題の取組状況等について

圏域名	根室
-----	----

重点課題	地域全体での医療従事者の確保について
------	--------------------

【概要】

- 根室圏域は人口10万人あたりの医師、歯科医師、薬剤師、看護師数が、全道21圏域中最も少なく、特に看護師不足が原因で地域センター病院である市立根室病院と町立中標津病院で病床を一部休床にせざるを得ないなど、地域の慢性的な医療従事者不足は深刻な状況となっています。

当圏域では、平成31年3月に開催した調整会議において、重点課題を「地域全体での医療従事者の確保」とし、現在は、令和3年度から振興局の独自事業予算の活用により、医療従事者確保5カ年事業を計画・実施しているところです。

【医療従事者5カ年事業（R3～R7）の概要】

- 地域全体での医療従事者の確保方策の検討・実施
保健医療福祉圏域連携推進会議や地域医療構想調整会議等において協議を行い、決定事項を推進
- 看護師を目指す高校生のための看護師養成校合同説明会を開催
 - (1) 内容
～看護師養成校の説明、現役看護師の講話、参加者グループセッション、看護体験
 - (2) 開催方法
～令和3年度及び4年度：WEB開催（新型コロナの影響のため）、令和5年度：ハイブリッド開催、令和6年度：対面開催
 - (3) 参加状況
～令和3年度：生徒15名、保護者2名、関係機関含め計46名
令和4年度：生徒25名、保護者8名、関係機関含め計60名
令和5年度：生徒13名、保護者2名、関係機関含め計45名
令和6年度：生徒14名、保護者1名、関係機関含め計42名
- 医療従事者確保のための専用ホームページの開設
根室地域の魅力発信、管内関係機関の従事者募集状況一覧の掲載、更新

【今後の課題・取組予定など】

- 医療従事者の地域偏在の緩和
- 当圏域の入院医療が釧路圏域に大きく依存する状況にあるため、既存の医療情報ネットワークの一層の推進を含めた釧路圏域との連携強化